

## 日本の伝統音楽に親しむ～雅楽～

1 日 時 令和2年9月24日(木) 第3校時 10:40～11:30

2 学年・学級 第3学年A組 (男子16名, 女子17名 計33名)

3 場 所 音楽室

4 題材の目標

- ・我が国の雅楽独特の音色や響きに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。  
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・西洋楽器(オーケストラ)と和楽器(管絃)の演奏を比較聴取し、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明しているなど、そのよさや美しさを味わって鑑賞している。(鑑賞の能力)

5 題材設定の理由について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領(平成20年)音楽の第2学年及び第3学年「B 鑑賞」「(1)ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。」を扱う。

雅楽は、唐時代を中心とする中国と、その近隣諸国及び朝鮮半島で盛んだった音楽や舞が日本に伝わり、日本人の嗜好にあった旋律や楽器の音色の響きに改められ、日本独自の様式美を伴って発展してきた音楽である。そのため、その響きはきわめて日本的な音感覚を醸し出している。そこで、映画「ミッションインポッシブル」の有名なテーマ曲を西洋楽器(オーケストラ演奏)と和楽器(管絃演奏)とで比較し、用いられている楽器の音色や響き、特徴を聴き取る活動を設定する。同じ楽曲なので、旋律の動きなどは似ているが、それぞれ使われている楽器が異なることから、その音色や響きは異なる。楽器の音色や響きがどのように異なっているのか、それによりどのような感じがしたか、という二つの側面から、雅楽のよさや美しさを味わって鑑賞することができることをねらいとしている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、歌唱活動に興味をもち、特に表現活動において積極的に活動することができる。また、鑑賞活動に対する意欲も高い。1・2学期の鑑賞活動では、楽曲に込めた作曲者の思いを考えさせる取組を行ってきた。また、管絃楽(オーケストラ)の楽器についても学習し、それぞれの楽器の音色や特徴に着目し、それぞれの楽器がどのような音色をしていて、どのような演奏をするときにふさわしい楽器か考えさせた。しかし、鑑賞活動において楽器の音色に着目して鑑賞している生徒は少ない。また、感じたことを言葉で表現することが苦手な生徒が多く、特に和楽器のような未知の楽器については興味が薄いようである。

「和楽器」についてアンケートを実施したところ、知っている楽器は「箏」「三味線」「和太鼓」「尺八」を挙げた。イメージする音色は「京都を思い出す日本文化らしい和む音」「残響あり余韻のある響き」また、擬音語で「ベンベンベン」などの回答もあった。

本題材では、ヴァイオリンやトランペットなどの西洋楽器(オーケストラ演奏)と比較鑑賞しながら、和楽器(管絃演奏)の美しさや特徴について、言語化を促すことで音楽のよさや美しさを味わって聴く手立てとし、音楽のよさを他者に伝えることができるような生徒を育成したい。

### (3) 指導観

生徒たちにとって、「我が国の音楽」や「和楽器」は、日常生活から遠く離れたところにあるものである。指導に当たっては、まず雅楽のそれぞれの楽器の音色や特徴を理解させることが必要である。1・2学期を通して、管弦楽（オーケストラ）の楽器について学習した。管弦楽で使用される楽器の音色や特徴に着目し、それぞれの楽器がどのような音色をしていて、どのような演奏をするときにふさわしい楽器か考えさせた。

本題材では、これまでの学習を活かし、西洋楽器（オーケストラ演奏）と和楽器（管絃演奏）を比較聴取し、音色や響きがどのように異なるのか、それによりどのように感じ取ったのか、二つの側面から音楽を聴き取る活動を行う。楽器の音色や響きを知覚すること、それらの働きによる特質や雰囲気を感じ取ること、二つの側面から雅楽（管絃）の音楽を捉えることをねらう。その際、生徒には比較して聴く視点（音色・響き）を明確にして、何を聴き取ればよいか確認し、擬音で表現しても良いことにする。

#### 【生徒指導の三機能との関連】

「自己決定の場を与える」機能を生かして、生徒に興味・関心をもたせるように生徒にとってなじみの深い曲を提示し、主体的な学びを促す。また、学習の見通しをもたせるために、めあてを明確にし、比較対象を明示することで何をどのように考えればよいかを生徒に分かりやすく説明する。

「自己存在感を与える」機能を生かして、課題解決の場で、自分や友だちの意見を比較、検討し、さらに追及していくために、学習形態を個人思考→ペアでの共有→個人思考→グループでの共有・思考の深化・表現→個人でのふり返りとし、様々な学習形態を用いながら「できた。」「分かった。」「友だちの役にたった。」という成就感をもたせる。また、机間指導を積極的に取り入れ、生徒の学習や理解の状況を把握し、生徒の活躍の場につなげたり、つまづきに対応したりする。

「共感的人間関係を育成する」機能を生かして、ペアやグループでの学習の際、意見や情報を共有することで新しい学びや発見があるという体験をさせ、相互評価をし、肯定的な評価へ導く。また、グループでの活動が停滞しているときは、生徒同士の発言をつなげ、集団での学び合いになるよう促す。

## 6 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度                                    | 鑑賞の能力   |
|---|---|
| 我が国の雅楽（管絃）独特の音色や響きに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 | 西洋楽器（オーケストラ）と和楽器（管絃）の演奏を比較聴取し、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明しているなど、そのよさや美しさを味わって鑑賞している。 |

7 題材の指導と評価の計画(全2時間)

| 学習活動   | 評 価    |        |   |                |                                |
|--|--------|--------|---|----------------|--------------------------------|
|  | 関<br>意 | 鑑<br>賞 | 評価規準  | 評価方法           | つきたい<br>資質・能力                  |
| ○課題の設定 (0.5時)<br>情報の収集 (0.5時)<br>雅楽(管絃)の演奏楽器の特徴や歴史などについて学ぶ。  | ○      |        | 我が国の雅楽(管絃)独特の音色や響きに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。   | 授業観察<br>ワークシート | 【主体的に学ぶ力】<br>【表現力・コミュニケーション能力】 |
| ○整理・分析 (0.5時)<br>○まとめ・創造・表現 (0.5時)<br>【本時】<br>西洋楽器(オーケストラ演奏)と和楽器(管絃演奏)の音色や響きの相違点をまとめ、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを根拠に、雅楽のよさや美しさを味わう。 |        | ◎      | 西洋楽器(オーケストラ)と和楽器(管絃)の演奏を比較聴取し、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明しているなど、そのよさや美しさを味わって鑑賞している。 | 授業観察<br>ワークシート |                                |

8 本題材において育成しようとする資質・能力について  
【主体的に学ぶ力】・【表現力・コミュニケーション能力】

9 本時の展開

(1) 本時の目標

比較鑑賞し、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを根拠に、雅楽のよさや美しさを味わうことができる。

(2) 本時の評価規準

西洋楽器(オーケストラ)と和楽器(管絃)の演奏を比較聴取し、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明しているなど、そのよさや美しさを味わって鑑賞している。(鑑賞の能力)

(3) 本時の準備物

視聴用CD, DVD・ホワイトボード

(4) 本時の学習過程 生徒指導の三機能との関連

- ㊦…自己決定の場を与える
- ㊧…自己存在感を与える
- ㊨…共感的人間関係を育成する

| 学 習 活 動            | 指導上の留意事項 (◇)<br>(◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)              | 評価規準 [観点]<br>★資質・能力 (評価方法) |
|--------------------|---|----------------------------|
| 1 導入【既習事項の確認】 [3分] |   |                            |
| ○楽器の復習をする。         | ◆「オーケストラの楽器」「管絃の楽器」を確認する。<br>(フルート・クラリネット・トランペット・箏・笙・箏など) |                            |

2 本時のミッションを設定（確認）する [5分]

|  |   |                       |
|--|---|-----------------------|
| <p>○ミッションを知り、本時の学習の流れを理解する。</p> <p>○CDで比較鑑賞し、連想したことをワークシートに記入する。</p> | <p style="text-align: center;"><b>ミッション 「スパイ大作戦 ～正体を暴け～」</b></p> <p>◇異なる演奏形態で演奏している曲（「ミッションインポッシブル」）をCDで流し、何が浮かぶか連想させる。</p> <p style="text-align: center;"><b>「自己決定」</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ⓞ興味・関心をもち、主体的な学びへつなげるため、生徒のなじみ深い曲を提示する。</p> <p>Ⓞ自分で気づいたことや考えたことをまとめる時間を確保する。</p> </div> <p>◇ペアで話し合い、自分の考えを伝え合う。</p> <p style="text-align: center;"><b>「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ⓞ自分の考えを発表できる場を設定する。</p> <p>Ⓞ協力して学習できるような場を設定する。</p> <p>Ⓞ学ぶ楽しさや成就感を味わわせるため、発言の機会を設定する。</p> <p>Ⓞ課題解決に向けて教え合いの場面を設定し、相手の意見を肯定的に受け入れる場を設定する。</p> </div> | <p>★主体的に学ぶ力（授業観察）</p> |
|--|---|-----------------------|

3 ねらいを確認する [2分]

|                      |   |  |
|----------------------|---|--|
| <p>○本時のめあてを確認する。</p> | <p style="text-align: center;"><b>「自己決定」</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ⓞ比較対象を示すことで、自分の意見や考えをもちやすくする。</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 比較鑑賞し、管絃独特の音色や響きと曲想との関わりを根拠に、雅楽のよさや美しさを味わうことができる。</p> </div> |
|----------------------|---|--|

4 情報を整理・分析し、問題解決をする [30分]

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p>○もう一度、CDで比較鑑賞する。</p> <p>A：オーケストラ演奏と<br/>B：管絃演奏を聴き、相違点を書き出す。</p> | <p>◇A：オーケストラ演奏とB：管絃演奏を通して流し、楽器の音色や特徴に着目してメモさせる。</p> <p style="text-align: center;"><b>「自己決定」</b></p> <p>◆擬音で表現しても良いことにする。「自己存在感」</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>A：オーケストラ演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迫力がある。（音が大きい）</li> <li>・強弱がはっきりしている</li> <li>・金管楽器が華やか</li> <li>・木管楽器が柔らかい</li> </ul> <p>B：管絃演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不気味な感じ</li> </ul> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ⓞ着目する視点を与え、自分の考えをもちやすくする。</p> <p>Ⓞ自分で気付いたことや考えたことをまとめる時間を確保する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Ⓞ授業に参加できているという気持ちをもたせるために自分にあった表現方法でよいことを伝える。</p> </div> |
|--|--|--|

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>○4人グループで話し合い、ホワイトボードにまとめる。</p> <p>○A:オーケストラ演奏を発表する班(3班分)とB:管絃演奏を発表する班(3班分)がホワイトボードを出し発表する。</p> <p>○DVDを鑑賞する。</p> | <p>・音が抜けた感じがする</p> <p>・音がはっきり鋭く聴こえる</p> <p>・音が伸びている感じがする など</p> <p>◇もう一度、A:オーケストラでの演奏とB:管絃での演奏を通して流し、楽器の音色や特徴について、グループで交流させ、まとめさせる。</p> <p><b>「自己存在感」「共感的人間関係」</b></p> <p>◆型を決めてまとめさせる。</p> <p><b>「自己決定」</b></p> <p>④どのようにまとめたらよいかを明示し、課題解決に向けて主体的に活動することを促す。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>「オーケストラ演奏と比べて、管絃の音色は、○○のような感じがする。だからBが管絃である。」</p> <p>「管絃の演奏と比べて、オーケストラの音色は、○○のような感じがする。だから、Aがオーケストラである」</p> <p>◇机間指導で、音色から考えられる楽器だけを根拠にしているのではなく、それぞれの楽器の音色に注目して捉えられているかに着目し、発表させる演奏形態を指定する。</p> <p><b>「自己存在感」「共感的人間関係」</b></p> <p>④学習状況を把握し、生徒の活躍の場を設定したり、さらなる理解を促したりするために、机間指導をする。</p> <p>④発表の際の表現の仕方などに注目させ、相互評価させることでお互いの良さを認め合う活動を取り入れる。</p> <p>◇Aがオーケストラ演奏、Bが管絃演奏であることを確認し、再度音色に着目しながら、鑑賞する。</p> | <p>④協力して学習できるような場を設定する。</p> <p>④グループでの意見や情報を共有することで新しい発見やお互いを認め合う場を設定する。</p> <p>④課題解決に向けて教え合いの場面を設定し、相手の意見を肯定的に受け入れる場を設定する。</p> <p>④机間指導の際、生徒同士の発言をつなげ、集団での学び合いができるよう指導する。</p> <p>★表現力・コミュニケーション能力<br/>(ワークシート・グループワーク)</p> |
| <p>5 学習のまとめをする [5分]</p>   |   |   |
| <p>○本時の学習で学んだことや考えたことをまとめる。</p>   | <p>◇西洋楽器と和楽器の違いを感じ取らせる。</p> <p>Aが「西洋楽器」オーケストラ演奏である。</p> <p><u>木管楽器が柔らかい音色</u>で演奏しているから。</p> <p><u>金管楽器がとても迫力</u>があるから。</p> <p><u>強弱の差</u>がよく出ているから。 など</p> <p>B:「和楽器」管絃演奏</p> <p>笙が<u>不気味な響き</u>で日本ぽいから。</p> <p>箏の<u>鼻に抜けたような音色</u>が聞こえるから。</p> <p>箏の音色が<u>鋭くはっきり</u>聞こえるから。 など</p>   | <p>比較聴取し、西洋楽器と和楽器、それぞれの独特の音色や響きと曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明しているなどそのよさや美しさを味わって鑑賞している。【鑑賞の能力】</p>  |

6 本時のふり返しをして、次時につなげる [5分]

○めあてに対する授業のふり返しを生徒の言葉でふり返させる。

生徒のふり返し

同じ曲なら、楽器を変えたくらいではそんなに差はないだろうと思っていたが、聴き比べると雰囲気が全然違うので、驚いた。

オーケストラの演奏は迫力があってドラマティックに聞こえたが、管絃の演奏は不気味な空気感を醸し出しているように聴こえた。

日本に長く伝わる楽器独自の音色が重なり合うと、このように空気のゆれみたいなズレが生まれて、不気味で神秘的な印象をもつのだと思った。この独特な音色が、管絃の魅力だと思ったし、幻想的なものを好む日本人々に愛されてきた理由なのかなと思った。

【自己決定】

④理解したことを確かめたり、さらに追及したりするためにふり返りの時間を設定する。

(5) 板書計画

**めあて**

比較鑑賞し、それぞれの演奏形態（オーケストラか管絃か）を、楽器の音色や特徴を根拠に説明することができる。

**ミッション**

**スパイ大作戦  
～正体を暴け～**

第1 問目

ミニホワイトボード

ミニホワイトボード

ミニホワイトボード

第2 問目

ミニホワイトボード

ミニホワイトボード

ミニホワイトボード

**ふり返し**

生徒のふり返し

同じ曲なら、楽器を変えたくらいではそんなに差はないだろうと思っていたが、聴き比べると雰囲気が全然違うので、驚いた。

オーケストラの演奏は迫力があってドラマティックに聞こえたが、管絃の演奏は不気味な空気感を醸し出しているように聴こえた。

日本に長く伝わる楽器独自の音色が重なり合うと、このように空気のゆれみたいなズレが生まれて、不気味で神秘的な印象をもつのだと思った。この独特な音色が、管絃の魅力だと思ったし、幻想的なものを好む日本人々に愛されてきた理由なのかなと思った。